

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所 ほくよう		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 13日		～ 2026年 3月 17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	2026年 3月 10日		～ 2026年 3月 17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・療育、活動内容	・活動は、マンネリ化せず、個々のご利用児の支援計画の内容を踏まえた取り組みができるように考慮している。同じ活動メニューでも、各ご利用児様に合わせた目標の設定を行っている。	・日頃の活動の振り返りを行い、ご利用児様の成長につながる、よりよい活動や療育につなげていく。 ・職員研修の実施
2	・職員配置人数。配置職種。	・専門職種が配置されていることで、各専門分野から意見を出し合い、ご利用児様の成長のための支援を(療育を)、チームとして連携し支援ができる。	・各専門職が、専門分野を超えて関わり支援を行うことで、様々な面よりご利用児様を把握する。 ・職員研修の実施
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者様との関わりや保護者支援。 ・ご利用児様の持ち物の取り扱い方等。	・送迎時に、保護者様へご利用児のことを伝えていますが、その内容や利用の様子を記載する連絡帳との相違点などの把握。連絡帳記入者と送迎の職員が違う場合が多く、把握できていないことが多い。職員同士の情報交換不足。ご家族参加の行事は、開催し、その時間の中で、保護者同士の交流を行っていたが、十分な時間が取れていなかった。保護者様のみ参加できる会を実施する場合、場所、こどもの過ごす場所や見守り職員の確保が必要で、体制上の問題で実施できていなかった。 ・ご利用児様の持ち物の取り扱いが、職員によっては丁寧にできていない。いづれも指導不足であると反省している。	・常に、職員間の情報交換、情報共有を行う。送迎職員は、ご利用児様の様子がわかる職員からの申し送りを聞いて出発する。 ・保護者支援に関しては、保護者様同士の交流ができる場の提供として、職員体制、場所の確保等をよく検討し、定期的なサロン等の開催できるように検討する。 ・ご利用児様の持ち物等に関しては、丁寧に大事に取り扱うことを周知徹底。また、おむつ等、排尿等での汚染の有無に関して、介助職員で交換の判断ができない場合は、他の職員にも確認してもらう。 ・保護者様支援についての研修
2	・保護者様に対して、各マニュアルや災害時の対応についての説明や公表について	・各マニュアルや災害時の対応については、作成されているが、保護者に渡すとなると一部の枚数が多くなること、また時間を取って説明する時間が作れなかった。避難訓練の実施等は、事業所のおたよりで報告を行っていた。また、自然災害時、事業所からどこに避難するかなども、おたよりに掲載していたが十分ではなかったと反省している。	・各マニュアル等は、まとめて配布や説明の検討。ページの多いものに関しては、会社での取り組みとして、HPなどでの公表などの検討を行う。避難訓練等を行った際は、継続しておたよりでお知らせする。
3	・地域との交流	・自治会に加入し、所属の班の班長が回ってくる。日常的に、近所の方と挨拶や話を。地域のふれあいセンター等は利用している。また、日頃の活動(季節の行事など)に参加をお願いすることもあるが、保護者参加の行事などに近所の方を招待したことは、最近ではなかった。また、地域の行事などは、土日が多く、ご利用児様と参加が難しいことが多かった。健康児との交流はできていなかった。取り組み方を検討する。	・継続し、自治会への加入し、回覧板を回すときなどに、近所の方とコミュニケーションを図る。健康児との交流では、地域の学童との交流など取り組み方を検討する。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 多機能型事業所 ほくよう

公表日 2026年3月30日

利用児童数 2026/3/17

8名

回収数 2

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	50%	50%				で過ごすこと、民家を利用しているため、十分な広さが確保できていない可能性はある。現在の室内等の広さでできる活動や、ご利用児にゆっくり過ごしていただけるような配慮等に考慮している。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	100%					
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	100%					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。						
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	100%					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。						
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	100%					
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	100%					
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。						
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	100%					
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。			100%			現在は、地域の子供さんと活動等は、取り組んでいない。今後、どのように取り組んでいくか検討している。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	100%					
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。						
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。						
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	50%		50%			常に保護者の方へ連絡帳や送迎の際に、ご利用児のことを伝えあっていたつもりでしたが十分ではなかったと反省した。日常的な状況や変化を伝える。内容は、職員が共有しておく。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	50%		50%			面談は、年2回は開催。日常的な子育てに関することなどは、相談があった方に対し、個別に対応していた。定期的な面談の頻度や面談の時間を検討する。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。						
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	50%		50%			家族参加の行事を年1回は開催している。その中で、保護者様同士で交流をもっていた。十分とは言えないため、交流の場を開催したいと考えているが、職員体制等の関係で実施できていない。開催のために、工夫することが今後の課題である。
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	50%		50%			

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	50%		50%		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	100%				
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	100%				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。		50%	50%		今後、周知、説明を実施していくため、方法等を検討中。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	100%				
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	100%				
	29	事業所の支援に満足していますか。	50%	50%		連絡帳に書いてあること、スタッフさんの申し送りの意見が全く通うときがあります。オムツに関して、排泄を尿とりパットだけにしていておむつが全く汚れていなくても一様に交換されていることが何度もありました。おむつは助成金で買っていることもあり無駄使いしないしてほしいです。	職員への対応や支援については、共通したものとし、支援した内容を職員間でしっかり共有し、連絡帳への記入や保護者様へお伝えする。また、おむつ等の消耗品等でも、大事に扱うことなどを職員間で再度学び、細やかな支援がで支援の質の向上につなげられるように努める。

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	多機能型事業所 ほうよう				公表日	2026年3月30日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・ 体制 整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		○	横になって過ごす方、座位で過ごす方、またお昼寝をするスペースなど、必要な場合は、空間の分けて使用する。隣の部屋も活用。また、常に目が届く場所で職員が見守りを行い、安心、安全に楽しく過ごせるように配慮している。	長期休みでは、多機能型であるため、児童発達支援のご利用児童も一緒に過ごすことがあるため、スペースが適切ではないこともある。ただし、配慮し使用している。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	テイルーム等には、危険のリスクがあるものは、極力置かない、片づけるようにしている。また、浴室やトイレなどでは、ご利用児童の身体が、壁等に接触しそうな場合は、やわらかいもので保護して使用している。	事業所は、長廊を使用している。室内、ご利用児童が、出入りする場所には段差等はない。しかし、トイレや浴室等は、既存のまま使用しているため、狭く手すり等の設置がなく、バリアフリーではない部分がある。テイルーム等には、危険のリスクがあるものは、極力置かない、片づけるようにしている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			
業務 改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			事業所内の完全バリアフリー化等はできていない。また、改善へ向け検討をおこなっている項目もある。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○			
適切 な 支 援 の 提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		ご利用児童の目標や支援については、そのご利用児童の利用日には、常に職員が確認できるようにしている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		○	法人内で作成されたアセスメントを使用。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		○	行事等の活動は、数名で決め、職員へ周知相談を行う。普段の活動は、活動リーダーが決め、必要時相談する。朝礼で周知している。その際、支援項目等に関連する内容を組み込んでもらう。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		活動担当の職員が、一人で考えず、相談できる雰囲気づくり。	マンネリ化することがある。

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○				
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○				
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		○			数名の職員間で、ご利用の様子や感想や今後に向け工夫などを話すことができるが、時間を設けていない。また、時間を取ることが難しい。行事の活動に関しては、ミーティング等で振り返りを行っている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			支援計画に関連した内容も記載するよう心掛けている	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○				
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	○				
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○			声掛けの仕方やご利用児様の意思表示見逃さないように心掛けている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○				
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○				
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○				
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○				併行ご利用の利用児様に関しては、送迎時に情報交換や共有を行っていたが、平日にご利用のない方に関しては、保護者様や併用先の児童発達事業所を通して情報交換や情報共有となっている。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			情報提供書を発行している	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○				
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○			実施できていない。実施の仕方等を含め、今後の課題である。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○				
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			連絡帳や送迎時に実施。必要時は、電話等でも行う。	職員が共通してことを伝えていないことがあった。今後、研修等を行い、安心してご利用いただける事業所を目指す。
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		外部からの研修案内については、配布等しご案内している。	ペアレント・トレーニングについては、法人内で、職員向けには実施している。保護者向けの研修会については、現在は行っていない。講師を外部にお願ひし、開催を検討したテーマもあったが、実施出来なかった。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○				
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			日頃の会話や面談の際に確認している。	ご利用児様や保護者様の意向を十分に把握できていなかった。日頃より、コミュニケーションを図り、意向を話していただけるように信頼関係を作っていく。また、全ての職員が、対応できるように研修等の開催が必要。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○				
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			連絡帳や送迎時に実施。必要時は、電話や面談等でも行う。外部の支援の紹介等もしている。	ご利用児様や保護者様の意向を十分に把握できていなかった。すべての職員が、対応できるように研修等の開催が必要。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。			家族（兄弟時も参加可能）行事は実施。その中で、保護者様同士で交流されている方もいらっしゃる。	場所と時間等が、十分に取れない。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			どこまでの苦情を周知するか、明確な基準を現在検討している。また、周知の方法も検討している。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			配慮を行っているつもりでしたが、十分ではなかった。ご指摘をいただき、今後の対応を職員が共通して行えるようにする。職員研修の実施。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	ハロウィンなどの季節の行事では、近隣の方に参加していただいている。また、自治会に入会している。	内容によっては、声をかけていたが、大きな行事を実施できていないため、地域住民の方を招待はできていない。今後検討。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		○	訓練実施の報告や避難場所等については、事業所のお便りに掲載してきた。	全てのマニュアル類を保護者に周知できていない。今後の課題。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○			